

# 巻 頭 言

## 平成 24 年度の技術センターの活動を振り返って

技術センター長 山本 陽介



平成 24 年度は、前年度末に完成した広島大学の主要工作施設である学校工場（工学研究科）と特殊加工技術開発室（理学研究科）の統合による“ものづくりプラザ”の運用を開始したことが大きな成果でした。

ものづくりプラザは、第 I 期工事で整備したフェニックス工房（Phoenix Workshop & Atelier；学生支援）、第 II 期工事で整備したフェニックスファクトリー（Phoenix Factory；研究・実習支援）に分かれておりますが、隣接しており、効率の良い運用体制が整備できたこともあって、依頼が前年度に比べて 10%程度増加し、非常に忙しくなってうれしい悲鳴をあげている状況です。

本事業の実施にあたり、大変お世話になった学長・副学長・教員の先生、学長支援 G・学術支援 G・施設各 G・各研究科の事務職員および技術職員の方々に、改めて厚くお礼を申し上げます。

また、平成 24 年 9 月に恒例の技術センター研修会を開催しました。理学研究科の坂口綾現准教授から基調講演をしていただきましたが、とてもわかりやすく興味深いお話で勉強になりました。坂口先生におかれましては、大変お忙しいところご講演いただき、ありがとうございました。

最後になりましたが、平成 23 年度から 3 年間の予定でスタートした「設備サポートセンター」事業も順調に進んでいますが、文科省からその成果を認められて、継続していただけることになりました。技術センターとしても喜ばしい限りですが、新統括である村上技術統括体制の元、自然科学系の測定器や計測機器を集中管理する「自然科学研究支援開発センター（N-BARD）」、および大学の設備に関する体制整備などを所掌する設備サポートセンター会議とのさらなる連携を図りたいと考えております。